

旅

旅に出たことはありますか？
旅は旅行に限りません

TRAVEL

旅とは、この心の揺らぎそのものじゃないか
26歳の時、仕事を辞めて
南米1周の旅へ出た P3

TRAVEL

写真部で合宿にいった！
気の知れた仲間と、
道東へ旅にいった P7



BOOK

旅の効用

自分の周りの世界に退屈したことありませんか？ 同じ景色、同じ毎日、同じ人たち、同じような会話、繰り返される日々。この物語の主人公ジュールは、みどりの世界で退屈してました。だから、旅にでることにしたのです。ジュールは自分の知らない世界へ足を踏み入れました。どんどん進んでいきます。赤の世界で元気になるときもあったし、黒の世界で怖くて不安になるときもありました。

旅にでるといつもと違うことを感じますよね。そして、ジュールは、自分が知らなかった世界を通りぬけて、みどりの世界に戻ってきたのでした。みどりだけの世界に。

ジュールは退屈の中に逆戻り？ いや、そうじゃなかったんだ。旅はジュールを変えた。どう変わったかって？ 旅から戻ってくると自分の感覚が変わります。僕も同じ経験をしたことがあります。まあ、そのために旅に出るんですけどね。旅はいままで見えなかったものや感じなかったものに気がつくことができるようになるんです。



みどりのなかのジュール

ジェローム・リュイリエ文
結城昌子訳
小学館 / ¥1,617



LETTER



あちこち飛び回っているMさんへ

この本を知ってますか？主人公は、あなたもよく知っているひとりの青年です。腕のいい木工職人で、独創的な考え方をもって、自分ってのがしっかりある。それでいて意固地じゃなくて、ついつい一緒にいたくなっちゃうような魅力をもっている人。さあ、誰でしょう？ 答えはイエス・キリストです。もし隣にヨシュア(=イエス)がいたら、この世界をどう見るだろうか、あのことに對してどういう意見をもつだろうか、っていうことを考えさせてくれる一冊です。この本はフィクションですけど、イエスは実在した人物ですから、彼がどんな人だったかっていうことに僕は興味があります。だって、これほど有名な30代の青年って少ないですよ。そのイエスに会った人たちが、彼についての証言をしているのが『新約聖書』です。北星余市の生徒たちは手に取ったことがあるはず？！宗教って人を不自由にしてしまうことがあります。本来は人を解放するものなのにね。自由でいることは、不自由よりも難しいことなのかもしれません。誰かのルールで自分を縛るほうが楽チンなのかな。旅は、いまある現実から少し離れて、そういうことを思い出させてくれる良い機会です。



ヨシュア

自由と解放をもたらすひと
ジョーゼフ・F・ガーゾーン
山崎高司 訳
大月書店 / ¥1,080



BOOK

旅の終着点

ガブリエル・パンサンの絵本を読んだことがありますか？僕は彼女の作品が大好きなんです。この本の中の言葉を紹介しますね。旅の目的地について明快に教えてくれる言葉です。それは「生きたいところで生きる。いっしょにいたい人と生きる。したいことをする」です。それができる人はそう多くありません。そのためには努力が必要だし、自分をよく知り、そして人を愛することを学ばなければなりません。学生ってそこにた



パプーリとフェデリコ

1. 森にいらして

カプリエル・パンサン 作
今江祥智・中井珠子 訳
BL出版 / 絶版

BOOK

旅への備え

こぐまのくんちゃんは、渡り鳥たちが南へ旅立っていくのをみて、自分も遠くにいったみたくなりました。誰かが遠くへ旅立っていくと、自分の気持ちもどこか遠くへ運ばれていきます。でも、現実にはどこにもいけない自分に気がつくとき、急に焦りを感じたりするものです。旅はどんなときも、いま自分の立っているところから始まります。だから、急に遠いところへ飛んでいかなくても、少しずつ遠くへ行けるようになればいい



くんちゃんのだいいりよう

ドロシー・マリノ文・絵
石井桃子 訳
岩波書店 / ¥1,100



TRAVEL

旅とは、 この心の揺らぎ そのものじゃないか

文 諏訪かおり



「広い世界を見せてやれ」なんともクサイ台詞である。どうしようもなく腐っていた15歳の私をホームステイさせようと、父が母に言った。

娘に旅をさせたかった父は、26歳でアメリカ横断の旅をした。約40年前の出来事だ。留学中の友人に会いに行くと言紙を書き、それが届いたかも分からないまま日本を発ったそうだ。地図とコンパスを助手席に置きレンタカーでフリーウェイを走る。大学を辞め、職を転々としていた当時、きっと焦りや迷いの中で何かを求めているのだろう。多くは語らない父が「旅をしたら、日本に帰って働こうと思えた」と言った。なんだ、その意味不明な感想は！心の隅に疑問を残したまま私は社会人になった。そして、26歳で仕事を辞めた。その年、南米一周の旅に出たのである。



図らずも父と同じ年齢だった。

南米では多くの時間を長距離バスの中で過ごした。大き過ぎる大陸のデコボコ道を、何十時間もかけて進んでいく。考え事をする時間ならうんざりするほどあった。自分自身について考え、得体の知れない恐怖に襲われ、時に見知らぬ人と話し、自分の無力さに絶望する。日常生活からはみ出した心の揺らぎの連続だった。バスの車窓から見える途方もなく広い地平線に昇る朝日に、40年前に父が見たであろうアメリカの景色を重ねた。父もこんな景色の中でうんざりするほど自分と向き合い、自分を納得させられたのかな。「働こうと思えた」という言葉の意味が少し分かった気がした。旅とは、この心の揺らぎそのものじゃないかと思う。周りからは無駄に見えても、やらなきゃ前に進めない時がある。これは相当不器用な生き方だ。オススメしない。コスパも悪い。できることならもっとスマートに生きたい。それができない不器用かつだらしない私は、南米の記憶に「今やるべきことをしないと次には進めないよ」と背中を押され、もっと寝たーい、あれもこれも面倒くさーい、という気持ちと戦いながら、今日も仕事に向かうのです。



諏訪かおり | Kaori Suwa

福祉施設の児童指導員。元風俗誌編集者。15歳で訪れたNZを皮切りに世界各地を旅するが、語学力のなさに加え地図と数字に弱い、神様仏様、現地人様頼みの低スペックトラベラー。



決まったことが何もない

文 常井玄

10年前、私がまだ大学生だった頃。21歳の誕生日を迎える少し前に、オーストラリアへワーキングホリデービザで渡航することを決めた。理由は、英語を勉強する大学に行ったのに、ちっとも英語を話せない自分を変えたかったから。色々調べたり、考えたりしたけれど、結局渡航前にしたことは、シドニーの海の近くにある“Bondi Beachhouse YHA”という宿舎への、最初の1週間の宿泊予約のみ。

そんな感じで始まった私の旅。言葉も違う、知り合いもない、地下鉄の乗り方さえわからない。今日の予定は全くない。「決まったこと」が何もないのだ。今日一日をどう過ごそうと自由。逆に言えば、どう過ごすのが正解というのがない。全て自分で選択して決めなければいけないというのは、20歳の私にとってとても新鮮なことだった。良い大学に行って、良い会社に勤めて、良い給料をもらおうという、誰が決めたかわからない見えないレールの上に乗っかっているのが良い人生だと思っていた。けれども、シドニーの街に降りたった瞬間から、誰もレールを示してくれない。何をすべきというものが無い瞬間を味わい、その時に気づいた。自分の頭で考え、自ら道を選んでいかなければいけないということに。

宿での仕事は掃除やベッドメイキング、時々受付などの雑用。居心地のよさも相まって結局約1年間働いた。様々な国からの旅行者との出会いはとても刺激的だった。シンガポールとマレーシアの親を持ちオーストラリアで生まれ育った東南アジアにルーツを持つ同世代の友達や、日本人の両親だけ海外で生まれ育った日本人らしくない16歳の一人旅の男の子、フランスで学校の先生をしていたけど、自分探しにオーストラリアに来たという30才過ぎのフランス人の男性。

世間で決められているレールを歩いていない人達だったけれど、毎日の「この瞬間」を、活力を持って生き抜いている姿がなんだかうらやましく感じた。彼らと出会い、当時私が感じたことは、「これまで自分が正解だと思っていたことは何だろう？」ということだった。そう、たぶん、生き方に正解はないのだ。あるとすれば、誰かが決めた正解に乗っかることなく、自分自身の価値観や物差しで、自分の生きる道を選ぶことこそが、豊かな人生を送る上での正解なのではないか。旅をすることで、こんなことが得られるかもしれない、ということをもっと思った。



常井玄 | Gen Tokoi

埼玉出身で、今は札幌の旅行会社勤務の32才。仕事で余市に訪れる機会も多く、余市の水産博物館の館長とのおしゃべりが楽しい今日この頃。「多様性が認められる世の中」と「観光を通して地域を元気にしたい」と思いながら、北海道の観光について考える毎日。

TRAVEL

カーチャへの旅

文・写真 辻田美穂子

北海道のちょうど真北に、「樺太」と呼ばれた島がある。現在はサハリンという名でロシアの一部になっているけれど、第二次世界大戦前の40年間は、日本の土地だった場所だ。私の祖母は、その樺太で生まれた。祖母の話してくれる昔話には、耳が凍ってちぎれそうになるくらい寒いところに住んでいる大きな外国の男や「フレップ」という赤や黒の実、「カーチャ」と呼ばれる女の子が出てきた。もう少し大きくなった頃、カーチャは祖母の若い頃の呼び名だと知った。

祖母は戦後3年間、ソ連に支配されて樺太から「サハリン」となった土地で暮らしを続けた。人手も足りなかったので、母親が勤めていた病院で看護師として働くことになった。医者はロシア人に代わり、患者も同僚もロシア人が増えたので、少しずつロシア語も覚えた。祖母の名前である「けいこ」は、ロシア人にとって発音するのが難しく、頭文字のKをとって「カーチャ」というロシア名で呼ばれることになったそうだ。

写真の専門学校へ通っていた21歳の時、ある日先生が言ったひとことにピンときた。「絵は家にいても描けるけれど、写真は現地に行かないと撮れない。」頭の片隅でおとぎ話のようにぼんやりと存在していた樺太へ、行ってみようと思った。それから毎年、いろんな季節に出かけた。春といえば、植物が一気に芽吹き美しい季節。でもその頃のサハリンは雪解け水で道がぐちゃぐちゃで、「一年で一番美しい季節」と教



えられた。地元の大阪では見たこともない、何十キロも見通せる海沿いの道。そこをジリジリと太陽に照りつけられながら、どこから来たのかもわからない少年がひとりで歩いている。終戦の夏、この果てしない道を祖母も何週間もかけて逃げ歩いたのかと想像した。いつもバスから眺めているだけだった、遠くの紅葉した山肌。ある年、友人に誘われて足を踏み入れてみると、それは赤や黒のさまざまな種類のベリーで、祖母の言っていた「フレップ」の正体だと知った。東京に住んでいた時に訪れた極寒の2月には、初めてマイナス30度を体験した。マフラーで隠れきれない頬がちぎれてしまいそうで、「凍てつく」とはこのことかと思った。

一度だけ、祖母と一緒にサハリンへ行ったことがある。今から9年前、私にとっては初めてのサハリン、祖母にとっては62年ぶりに帰る樺太だった。なにもない草原や、廃墟に

なった建物を見るたびに、祖母はとても嬉しそうな顔をした。そこは祖母の家や学校、勤めた病院があった場所だった。「ここが正面玄関で、あっちが診療所で」と指差しながら教えてくれた祖母には、当時の樺太のまちが見えていたのだと思う。写真を撮り続けていると、わたしもその光景をいつか見られるんじゃないか。そんな気持ちで1年に1回、カーチャの暮らしていた土地へ旅をしている。

祖母の話はおとぎ話なんかではなく、確かに、そこにあった。



辻田美穂子 | Mihoko Tsujita

大阪出身の写真家。祖母の出身地である「樺太（サハリン）」の写真を撮るために北海道に移住。2019年度より、毎週総合講座で写真の授業をしている。少しずつ北星余市に友達ができてきて、嬉しい。

旅の本と音楽と映画



ユーコン漂流
野田知佑 (著)

広大なユーコン川をのんびり下りながら、多くの人と交流して素敵な時間をすごしていく、ゆったりとした本です。時間の流れが違っていて、そこには本当の自由があると感じました。いつか私もユーコン川に行き、雄大な自然に身を任せて漂流したいな。(中村希絵子)



宇宙よりも遠い場所
いしづかあつこ (監督)

ニューヨークで2018年のベストドラマのトップ10に選ばれるほど有名なアニメ作品。一言で言えば「女子高生たちが南極に行く物語」なのですが、そこからは想像できないほどの人間ドラマがあり、自分も誰かと旅に出たくなる作品です。(3年B組 大関涼)



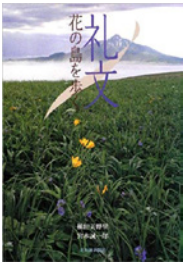
行かずに死ねるか!
石田ゆうすけ (著)

自転車で世界一周した人のお話。普通の青年が旅しながら感じることに面白い。思い立てば誰でも世界一周できちゃうって思えるし、次はこの国に行ってみると面白そうだな～なんてことも妄想できちゃいます。(中村希絵子)



アイボリー
Aqu3ra

「どこへでも行ける、たとえ空想の世界でも」そんな自分に眠るまだ見ぬ可能性と未知への高揚を強く感じられる曲がこの「アイボリー」です。きっとこれからの未来への不安を吹き飛ばして、新たな道に行く旅に必要なチカラをくれるでしょう。ぜひ聴いてみてください!!(2年A組 朝倉侑輝)



礼文 花の島を歩く
杉田美野里・宮本誠一郎 (著)

花の浮島・礼文島にはたくさんの花が咲きます。ぼくはこの島の高校で働いていたことがあり、レブンアツモリソウの郡生地に連れて行ってもらったときの感動は今でも覚えています。いつかまた礼文をのんびり歩きたい。(吉田裕一)



キノの旅
— the Beautiful World —
時雨沢恵一 (著) / 黒星紅白 (イラスト)

主人公たちが巡る独特な世界観を持った国々。各国での物語の核心が現代社会と繋がる部分もあり、考えさせられる。国ごとに話が区切られた短編集なので、長い物語を読むのが苦手という人でも大丈夫。意外なところにユニークなあとがきも必見。(3年B組 関谷詩織)



奇界遺産
佐藤健寿 (著)

とにかく奇妙。「きもち悪い!」っとちょっぴり目をつぶりたくなるページもあるけど今まで見たことのないものが絶対見られます。風景や、建物、人間など。心にグッさっとくるものがあるかも。チェックインスタグラム@x51 (菅野瑞希)



Mr. ビーン
カンヌで大迷惑
スティーヴ・ベンデラック (監督)

「ビーン」というおじさんがフランスへバカンスに出かけたものの、次々とトラブルが発生。ビーンは言葉を発しませんが、表情や身振り手振りで人に何かを伝えようとしながら旅が進んで行くのが面白い。とても笑えるコメディーなのでぜひ見て下さい。(3年A組 小濱ほたる)



旅のおともに
Red Bull

目が覚め集中力がアップするから、旅の移動を寝て過ごすのではなく、満喫することができます。また、ビタミンB群が多く含まれており、翼をさずかったかのようにエネルギーが湧いてきます。私の好きなビタミンB6も含まれています。旅のおともはこいつで決まり、「Red Bull」。(成田健太郎)



TRAVEL
BOL4

「息苦しいこの場所から抜け出せば明るく輝く私の青春」これはこの曲の中の一部を和訳したものです。この曲を聴くと自然と活力が湧いて来るし、なにより色々な挑戦をしようと思えます。是非、皆さん聴いてみて下さい。(2年B組 内田柊)



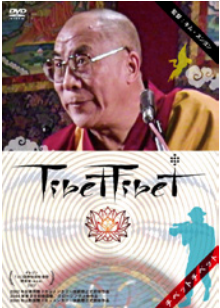
スケアクロウ
ジェリー・シャッツバーグ (監督)

刑期を終えて地元に戻る男(ジーン・ハックマン)と、別れた妻と暮らしている息子に会いに行く男(アル・パチーノ)、2人の男のロード・ムービー。スケアクロウとは案山子のこと。案山子はクロウ(カラス)を怖がらせるためというのが一般的な解釈ですが……(谷口学)



オーバーロード
丸山くがね (著)

大人気MMORPG「ユグドラシル」のサービス終了日。主人公はかつて仲間たちと作り上げたギルドで終了の時を待っていた。しかし、時間になっても終了せず……なろう系異世界モノの中でも一押し作品。未知の世界を冒険する。これぞ正に旅。(1年A組 大野英太郎)



チベットチベット
キム・スノン (監督)

北インドを旅行中にチベット自治区の問題を知ったキム・スノンが、チベットの高度な精神文化や、現状を知ってもらおうと取材したルポ。亡命政府を通じて同行取材も行った。ダライ・ラマや難民たちの悲痛な訴えと、美しい情景との対比をリアルに描いている。(妹尾克利)



Into the Wild
ショーン・ベン (監督)

金や物ばかりを与えようとする両親に嫌気がさしたクリスは世界の真理を求めアラスカへと旅に出る。身分証を捨て、アレグザンダーと名乗り生活する。この映画を見て、行動力の大切さ、金じゃ買えない幸せ、そして生きることの大切さを学びました。(2年A組 西田テオ)



On the Road
ジャック・ケルアック (著)

物理的に移動することではなく、何かや誰かに会うことによってどこかへ行くこと、それが旅。本を読む、音楽を聞く、映画を見る、そして興味深い人間に出会うことすら、旅。サルーは強烈なディーンに惹かれて旅に出る。あたしも「旅」がしたいなあ。さて、be on the road. (本間涼子)





EVENT

文化祭を終えて

文 岩佐尚希 / 写真 辻田美穂子

今回の文化祭は、去年とはかなり違う内容になりました。去年は、「どうせ他の誰かがやってくれるだろう」とか、「僕一人がちょっと動いたところで」とか、やりもしないのに勝手に決めつけて、あまり積極的に作業をしませんでした。でも今年は去年よりも周りのことが見えるようになり、みんながこんなに一生懸命働いてるんだから、自分も少しでもクラスのために働きたいと思い、たくさん作業をしました。そうすると、やっぱり大変なんだけど、2年B組みんなが作っている企画の一員になれた気がしてとてもうれしかったし、充実感もありました。当日の販売でも、お客さんが来てくれることに対してすごくうれしかったり、ちゃんと参加すると、ただ商品が売れたり、装飾がほめられることに対して感動したり喜んだり、こんなに感情が出てくるんだと思ってとても驚きました。今年の文化祭では自分のできることは精一杯やったつもりですが、来年は今年以上にやれることを全てやって、最高の文化祭にしたいです。



EVENT

あおぞら教室の
パン教室に
通っています

焼きあがるパン、至福な香りですよ
ねっ！ 私には「パンづくりは時間と手
間がかかる」という壁がありまして、
時々パンを焼くものの、一瞬で家族の
お腹の中に……「ねえ、味わって
る？」って。（笑）でも、あおぞら教
室のパン講座に参加してから考えが
変わったんです。それも激変！ こんな
に手軽に、こんなに簡単に、こんなに
分かりやすく、こんなに楽しく、講師
の先生の力量でこんなに変わるものな
んですね。「日常的に作ろうかな～」と
思えるレシピと配合で、全て自分で
つくるので、「そうそう！」「ここでこ
うよ！」と復習しながら、パンづくり
のハードルがどんどん低くなり、敬遠
していたちょっと難しそうなパンもつ
くれちゃって。普段からパンのある生
活になりました。



きっと講座に参加されている皆さん
もきっと同じじゃないかしら？ 1人1
斤失敗せず作って、良い香りと共に笑
顔で持ち帰る。幸福度が高いです。私
は主に午前に受講するのですが、時々
学生の方と同じテーブルになることが
あります。10代後半の学生さんと2時
間半、同じ作業をしながら色々話す
って、なかなか無い機会でしょう？ と
っても楽しいんです。昨日も講座があ
って、学生の方と作りましたよ、ハム
チーズロール。美味しい！ そろそろ趣味
の欄に「パンづくり」と書いてもいいか
なあとと思っています。次回はシュト
ーレンですぞ！

青空教室の
詳細・申し込みはこちら▶



森井美穂 | Miho Morii

小樽生まれ55歳。結婚を機に余市住民となる。趣
味庭作り、籐編み、パン作り。「和顔愛語」を座右
の銘としています

TRAVEL

リュックひとつで
旅に出る

ーミニマリスト入門 自立と依存編ー

文 藤田進

旅は身軽が一番。いつも身軽であること。これ
僕の憧れです。いつからなのか荷物は最低限がか
こいいって思ってる。何にも持たずに旅に出られ
たら一番いいのですが、結局、旅先で買ったりし
てお金がかさむので、自分に必要なものは持
っていかねばなりません。巨大なトランクケース
に思いっくまに詰め込むものもありますが、
いつも使っているものをさ
っとカバンに詰めて、自分
で背負えるくらいの気軽さ
と、いつでも旅立てるく
らいの身軽さがいい。だ
って、自分が生き抜く
ために必要な物が自分
で背負えるくらいの量
だったら最高じゃない
ですか？ このバッ
クパックひとつ
あれば、どこで
も生きていける。
それに、いつで
も旅にできる。そう
いうようなミニマ
ム(最小限)であるこ



藤田進 | Susumu Fujita



（札幌第一こ
どものとも
社 / 取締役。
20代から庭
と、こどもと、
絵本にとりつか
れ、いまだその間を行
ったり来たりしている。学
生時代は旅人に憧れなが
らも、土から離れられない
農民になり、鶏や豚や植物
たちと一緒に過ごす。その
後、札幌に戻り、絵本とお
もちゃ屋になりました。札
幌の庭ビルを運営中。



TRAVEL

勉強はほどほどに、
皆さんよい旅を。

文・写真 佐々木信

グラフィックデザイナーとして働き
始めて、かれこれ20年くらい経ちまし
た。どんな仕事かというと、企業のロゴ
や、広告や、ウェブサイトをにつくっ
ています。この星しんぶんは僕たちがデ
ザインしているんです。僕は昔から旅が
好きで、働き始めてからもできるだけ本
拠地を決めずに、一箇所に根を張らずに
、いつでもどこでも仕事ができるよう
に生きてきました。30代で自分の店を
オープンしてからはそうも言っていられ
なくなった時期があったんですけど。
駆け出しデザイナーの頃からコンピ
ュータはノート型と決めています。居
場所が決まってしまうのが嫌でデスク
トップは買いません。MacBookを開いた
ところがその日の仕事場。公園だった
り、フェリーに乗って海の上だった
り、雲の上だったり、東京だった
り、バンコクだったり、ロンドンだ
ったり。
僕の妻は洋服と雑貨の店を営んでい

て、僕以上に旅が好き。8歳の息子は
、僕の撮影だ、妻の仕入れだと、国内
外あちこち連れ回され、「家庭の事情」
でよく学校を休みます。彼が最初に
パスポートを取得したのは生後6ヵ月。
ホーチミン、ソウル、台北、バンコ
ク、チェンマイとアジア各地を旅して
いる息子は、旅を通じていろいろなこ
とを理解しているようです。例えば、
国が変われば言語が違うこと、通貨
が違うこと。言葉は違っても気持ち
は通じること。機内食のカートがま
わってきたら「アポージュス」と言
えば飲みたいものが手に入ること。
台北を訪れたら小籠包とかき氷は欠
かせないこと。タイには王様がいて
カオニャオ・マムアンというココナ
ツミルクで炊いた餅米とマンゴーの
デザートが美味しいこと。そして、
バックパックを背負って世界中を
旅している若者たちがいること。
気候も、景色も、匂いも、味も、
言葉も違う街で、いつもと同じよう
に朝起き

て、コーヒーを淹れて、ごはんを食
べて、散歩して、読書して、他愛の
ない話をして、一杯のんで、寝る。
僕が息子に伝えたいのは、テストで
高得点を取るコツでも、サッカーで
もありません。旅をすること。予想
外のことが起こった時に自分で判
断して乗り越える力。文化が違っ
ても言葉が違ってても友だちが
つくれること。息子が良い旅をする
青年になるといいなあ。そして北
星余市の学生の皆さんも。LCCの
登場でアジアの旅は劇的に安くな
りました。東京へ行くより安いな
んてことも。皆さん、良い旅を。



佐々木信 | Shin Sasaki
3KG代表。学生時代は札幌のミニ
シアターで映写技師として勤務。
サッポロスマイルや、AIR DOの
マスコットキャラクター、ベア・
ドゥをデザインしました。

ほりさんに
きいてみよう



Q ほりさん、
行ってみたい旅はありますか？

A 1989年、大学の4年生の夏。偶然と、いい加減
さで行程を決めるバイクの旅を楽しみました。そ
れまでは、ある程度きちんとスケジュールを決
めなければ動けなかった今堀青年にとっては、こ
れは本当に冒険だったんです。今考えても贅
沢な時間の過ごし方でした。地図を広げ「今日
は北の方に向かうけど、どの道を通って行
ったら面白そうだろう？」とか、宿は昼過ぎ
に公衆電話を見つけてから「空いてますか？」
と電話をかけて決める、とか。数日前たまた
ま知り合った人に勧められた、当時まだまだ
名前の知られていなかった美瑛に行き、拓真
館でしばらく写真に見入ってしまった。夜の
9時頃まで宿が見つからず、ようやくみつ
けたのは、1フロアに20台ほどパイプベッ
ドが並んだ野戦病院みたいなところ。そこ
でなんとなく気のあったライダーさんと次
の日に一緒に走ってみたり……。
そういう時間や行程を気にしない旅もまた
してみたいけど、全く別の感覚の旅も興
味があります。それは「月に行きたい」
とか「ヨットで太平洋渡ってみたい」
とか、途方もないこと。いろんな意味で
、「それはムリだろう」とわかりつつ、そ
んなことができたなら面白いだろうと考
えること、ありません？ でも、旅と言
われて一番気になっているのが、これ。
3年ほど前にテレビで「新年に合わせ
てバイクで宗谷岬に集まる人たちが
いる」というのを見たのです。「いや、こ
いつら絶対おかしいだろ？！」とつぶや
いたのと同時に、とっても心惹かれて
いる自分がいました。スパイクタイヤ
とかタイヤチェーンを履いているとい
え、凍った道路をバイクで走る怖さ。
マイナス気温に加えて体むき出しで走
る寒さや時に襲う吹雪などの天候。広
大な北海道の最北端までかかる時間。
そしてバイク故の孤独感、などなど。
そんなのを乗り越えて目的地を目指す
人達の行動力や思いに込められた、ある
意味『狂気』に憧れや魅力を感じたの
です。
やれないだろうし、やらないだろう
けど、やってみたい。うーん。心揺
さぶられてるなあ。

TRAVEL

写真部で
合宿にいった！

文 伊藤成希 / 写真 安東昂大

2019年9月17日火曜日、午前7時30分。特に晴れているわけでもなく、されど雨が降っているわけでもない少し肌寒い感じの曇り空。そんな日に写真部員12名と顧問の先生1名が学校の玄関前に集まりました。これからバスで1泊2日で野付半島に向けて出発しようとしているところなのです。道中カメラマンの辻田さんと合流し、14名となり再出発。どんな旅になるのか楽しみです。

結論からいうと今回の合宿はとても充実したものでした。1年生とたくさん関わり、見たことのない楽器や光景に出会ったり、おいしい海産物を食べたりと、写真部の活動以外にもさまざまな経験ができたからです。そんな充実した2日間の活動の全てを書くとなると原稿用紙2枚では足りないのですが、その中から2つ抜き出して書こうと思います。

1つ目は最初に行った、とても風が強く肌寒かった阿寒湖。天気はというと雲がほとんどなく、太陽が出ていて、とてもキレイに写真を撮ることができたスポットでした。1つ残念だったことは風が強くアヒルボートに乗れなかったこと。機会があれば今度は乗ってゆっくりしたいと思います。

2つ目は合宿の最終地点である野付半島でのことです。2日目も引き続き風が強く、なおかつ曇り空。天気はあまり良いとは言えませんでした。野付半島では1年生の3人とたくさん関わりました。ここでは1年生と散歩しながら、そこに咲いていた花などを撮ることができました。楽しくて時間が過ぎるのが早く、バスの出発時間に気づかずいたら吉田先生から連絡が。急いでバスに戻るため一生懸命走りました。めっちゃ疲れたけど楽しかったです。このように、最初に言った通りですが、今回の写真部の合宿はとても充実したものになりました。次も楽しみです。



EVENT

進路カフェに参加してみよう

文 田中亨



今日の選択で明日はどうか？ 今大切にしていることを大切に続けられるか？ その先に現れるものは幸せか？ 孤独か？ いろんな人や出来事と出会い、選択をしながら人は生きている。物の見方や考え方によって選択は変わる。選択し行動した先に意図しないことが待っていることも多い。念願叶わず失意にくれたり、大切にしていたものが、自分にとって通過点に過ぎなかったことを知ることもある。堅苦しく考えずに楽しんで、その場のノリで刹那を喜びに生きていく方法もある。生き方は人それぞれ。何が豊かで、何に満たされ、何を幸せと感じるかは人によって違う。



高校を卒業した後何をするのか、どこに所属するのか、何を求めて歩み出すのかを検討するのは大事なことです。真剣に考えたほうがいい。でも、そこで人生が決まるわけじゃない。むしろそこが人生の始まりで、そこから先に今まで以上に選択の連続が待っている。自分の経験や知識をもとに選択するしかないから、できるだけ多様な生き方に触れ、世界も、考え方も、物の見方も色々あることを知ってほしい。君たちは僕らが経験したことのない世界へと巣立っていく。学校の先生なんて学校の中しか知らないし、伝えられないことがたくさんある。だから、進路カフェを始めることにした。

お招きするのは「きっかけを提供してくれる人」「やってみたいことをサポートしてくれる人」「今を充実して生きている人」。その人たちの話を聞き、自分の中に取り込む。それが一人ひとりの生き方を選ぶ時のサンプルになったら、と考えてる。詳細は下記ブログにて。

ブログ
「北星余市はいま！」

進路カフェ
レポート

2018
10.10

進路カフェ
オープン！



2019
4.26

ハッシュダイ①
勝山さん



2019
5.30

ハッシュダイ②
勝山さん
三浦さん



2019
6.14

自転車
で30000キロの旅
マユとエリオット



2019
9.10

だるま森+
えりこさんの
トークライブ



私たち生徒会執行部は、みなさんが北星余市高校に入っていくやすい環境を作ろうと考え学校見学会を企画しました。入学してきた時に、知っている先輩や同級生が居ると居ないとでは、やっぱり入りやすさが違うと思うんです。北星に来る子は色々なタイプの子がいると思うけど、できる限りみんなのコミュニケーションの場になるように考えた結果、ポ

ートボール、タイダイ染め、カレー作りの3企画になりました。

学校見学会に来る前は「どんな人がいるんだろう？」とか、「親元から離れた余市でちゃんと暮らして行けるかな？」とか、不安が沢山あると思うんです。私も誰も知り合いがいない環境に飛び込むのはすごく不安でした。同級生や後輩に聞いてみても、やっぱりみんな多少なりと

さらに……普段の様子を覗ける、
学校見学も毎日受付中！

学校見学会のようなイベントとは違い、生徒が普段どんな学校生活を送っているかを、日曜・祝日を除く9:00～17:00の間であればいつでも見学いただけます。(例外もありますので事前にお電話でご確認ください)。見学するなら平日がお勧め。授業の様子、休み時間の過ごし方などありのままの姿を見ることが出来ます。自分がその場にいることをイメージしてみてください。



INFORMATION

2019年度も全国で
教育講演会・相談会を開催します！

教育講演・相談会では、各会場とも前半約1時間は北星余市高校の説明を中心に、教育についてお話しします。北星余市の教育理念のみならず、子育てについて大切なことは何かを考える機会にいただければ幸いです。残りの時間は、他の方に聞かれない形で、本校教員が個別に相談をお受けします。お待ちいただく間は、PTAや、PTAOB、卒業生がみなさんとお話しいたします。

お近くで開催される際はぜひ足を運んでみてください。開催詳細はWEBサイトをご確認ください。

※開催時間は全日程13:30～17:00です。

編集後記

「本と音楽と映画」のコーナーに生徒のおすすめが加わって、みんなで作っている感がより強まってきました。台風19号が関東を襲った翌日に香川県高松市まで移動したら、キャンセルで振り替えられた飛行機がさらに遅れ、空港に到着したらレンタカー会社は閉店していて……(佐々木信)

学校見学会

日時：2019年11月16日(土) 10:00～14:00
内容：生徒会企画の体験(ポートボール、タイダイ染め、カレー作り)、先輩と一緒に昼食、個人面談、寮下宿見学
申込：お電話やメール、LINE@でも受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

電話
0135-23-2165

メール
nyushi
@hokusei-y-h.ed.jp

LINE @



も不安を抱えながら余市に来ています。ただ学校見学会で生徒達の日常生活を見てこんな人がいるって分かったり、先輩たちが話しかけてきてくれたり、実際に北星で生活していくうちにその不安はだんだんと薄れていきました。だから、ちょっとでも私たちの学校に興味があったり、入りたいなって思っ下さっていただければ、見学会に来てみてください。先輩たちが私達を安心させてくれたように、私たち生徒会執行部が少しでも皆さんの安心材料になればな、と思っています。

ほとんどの方が
下宿も見学しています。

「せっかく北海道まで、せっかく余市まで来たのだから……」と、住む場所となる寮下宿を訪問される方がほとんどです。学校見学会終了後に、下宿見学も希望される場合はその旨お伝えください。所要時間は、移動も含めて1件につき約30～60分。多い方で3件くらい見学されます。余市町内の地理感覚や車などの交通手段のない方のために、寮・下宿の管理人さんが学校まで迎えに来てくださる場合も。詳しくはお問い合わせください。

〈関東地区〉

11月30日 土 神奈川県 かながわ県民センター
2月 8日 土 東京都 未定
3月 7日 土 東京都 未定

〈中部・北陸・関西地区〉

12月 1日 日 大阪府 エル・おおさか
12月14日 土 和歌山県 和歌山ビッグ愛
2月 9日 日 愛知県 ウインクあいち
2月11日 火・祝 大阪府 エル・おおさか
3月 8日 日 大阪府 エル・おおさか

〈中国・四国・九州地区地区〉

11月 9日 土 沖縄県 沖縄県立博物館・美術館
11月10日 日 福岡県 アクロス福岡

表紙の写真のうらばなし

53期生徒会執行部。朝のあいさつ運動や夜遅くまでの会議、遅刻も(ほぼ)せず、すごい！えらい！札幌から通いの子たちは5時台に起きて帰りは夜の11時なんてことも…そんなみんながクラウドファンディングであげた花火は最高にきれいだった～夏の終わりに素敵な思い出をありがとう♡ 半年間本当におつかれさまでした！(辻田美穂子)

